

令和5年1月27日(金)

学力向上推進の方向性

美幌町教育委員会

1 目 標

- (1) 児童生徒に、**誰一人落とすことなく、※基礎力を習得させること。**
- (2) 基礎力を活用し、児童生徒の思考力・判断力・表現力を向上させること。
- (3) 児童生徒が、将来の自分の姿を思い浮かべることができるようキャリア教育を充実させること。
(※基礎力：項目番号4にて説明)

2 学力向上のための方策

- (1) 学校では、基礎力（※「言語スキル・数量スキル・情報スキル」）を向上させるために全校で具体的な取組を進める。（※言語、数量、情報（ICT）を目的に応じて道具として使いこなす。）
- (2) 学校では、より質の高い学びを提供するために、言語スキル・数量スキル・情報スキルを活用し、思考力・判断力・表現力を高めるために、各校の実態に合った授業改善を推進する。（学校間での研究成果の交流）
- (3) 家庭学習では、タブレット持ち帰りを日常化し、タブレットを活用した「基礎力の定着を図る」等の取組と基礎力を活用した「思考力・判断力・表現力を高める」等の取組を進める。
- (4) 授業とリンクした家庭学習の計画・実践を進める。
- (5) **小中が連携して、進路指導や学習方法や家庭学習等の在り方を交流し、共有し、接続させる。**

3 今求められる資質・能力（学習指導要領）

- (1) 育成すべき資質・能力の3つ柱
 - 学びに向かう力 人間性
 - ・ どのように社会、世界と関わり、よりよい人生を送るか
 - 知識・技能
 - ・ 何を理解しているか。何ができるか。
 - 思考力・判断力・表現力
 - ・ 理解していること、できることをどう使か。
- (2) 「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を総合的にとらえて構造化する。

4 基礎力について

(1) 基礎学力について

基礎学力を広義にとらえると、学校で教えたこと・教育を通じて獲得した力(学習指導要領に記載されていること)と定義することができます。また、狭義のとらえとして、「読み・書き・計算」とおさえることがあります。

(2) 学力について

本質的な学力を、「どう生きていくかを考える力」ととらえることができます。(全国学力・学習状況調査の結果は学力の一部と捉えています。) また、学習意欲の評価は難しいとされています。

(3) 基礎力のおさえ

美幌町では学習の土台となる力を**基礎力**(「言語スキル・数量スキル・情報スキル」)と定義します。(参照 **国立教育政策研究所『21 世紀型能力』**)

21 世紀型能力全体の基礎基本として、「基礎力」を位置づけ、「言語スキル・数量スキル・情報スキル」の知識と技能の習熟をめざします。地域基盤社会において求められるスキルは、「読み書き、計算」といった知識・技能では不足と言われています。現社会での情報化の急激な普及の中で、言語や数量に加え、ICT の知識やスキルも生活の中で不可欠なリテラシーとなっています。

基礎力だけにとどまらず、「思考力・判断力・表現力」を向上させることが大切となります。

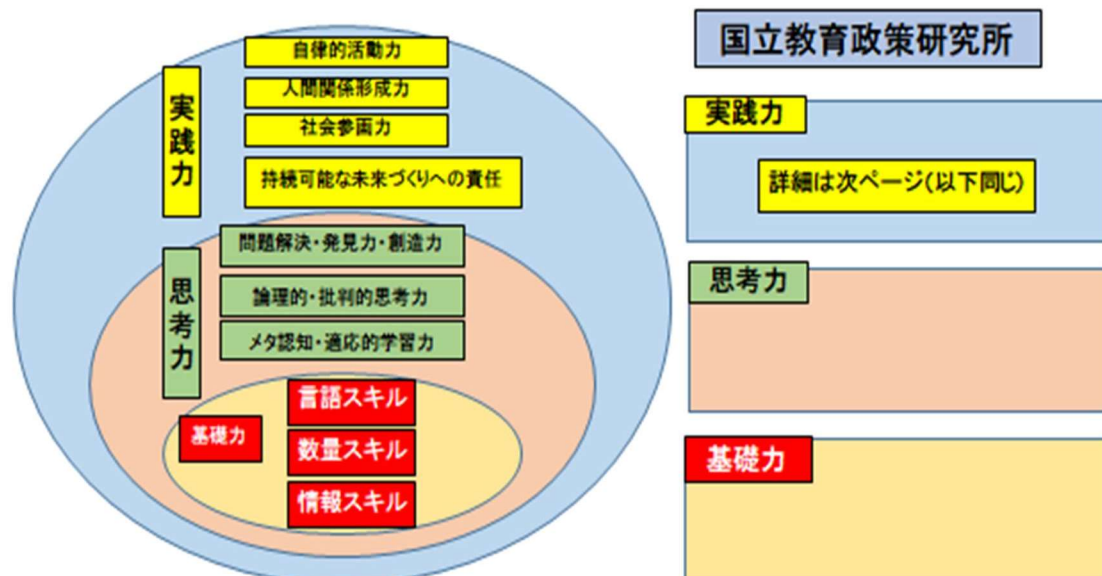
5 基礎力(21 世紀型能力)と学習指導要領の関連について

21 世紀型能力は、学力の三要素(1 基礎的・基本的な知識・技能の習得
2 知識・技能を活用して課題を解決するため必要な思考力・判断力・表現力
3 学習意欲)を「課題を解決するため」の資質・能力という視点で再構成し、さらに「確かな学力」と「豊かな心」、「健やかな体」の育成という学習指導要領が目指す知・徳・体を総合的に関連づけて捉えた上で、これからを学校教育で身に付けさせたい資質・能力として示したものです。

21 世紀型能力は、「思考力」を中核として、それを支える「基礎力」、その使い方を方向づける「実践力」という三層構造で構成されています。

今日、諸外国で求められている能力観とも一致しており、「生きる力」をより実効性のあるものとして、どう発揮するかという方向性を示唆しています。

21世紀型能力



実践力

- ・日常生活や社会、環境の中に問題を見つけ出し、自分のコミュニティ、社会にとっての価値のある解を導くことができる力。
- ・解を社会に発信し協調的に吟味することを通して他者や社会の重要性を感得できる力。

思考力

- ・一人一人が自ら学び判断し自分の考えを持って、他者と話し合い、考えを比較吟味して統合し、よりよい解や新しい知識を作り出し、さらに次の問いを見つける力。

基礎力

- ・言語、数量、情報（ICT）を目的に応じて道具として使いこなすスキル。

6 家庭学習の在り方 ～復習型か予習型か～

(1) 復習型

- 今日学んだことを振り返ったり、今学んでいる内容に適応した問題を解くといった復習型の家庭学習。
 - ・ 振り返り： 本来、1 単位時間の中で行われるものですが、「自力解決」や「集団解決」の時間を長くとるため、授業の最後の部分を家庭での持ち帰り学習とする方法もあります。(釧路付属が実践中) その日の何時までに Google フォームに提出、スプレッドシートと連携させて使用すると時短することができます。
 - ・ 適応問題： 今学習している内容に対応した問題を解く。タブレットを利活用し、AI 学習を実践することで、個別最適な学びが保障され、長期記憶に繋がります。

(2) 予習型

- 次の日、またはそれ以降に学ぶ内容を事前に自主学習するやり方。これから学ぼうとする単位について、あらかじめ学習者が学習内容に関する知識を積極的に身に付けておくことで、授業が理解しやすくなります。
(先行オーガナイザー 米 教育心理学 オースベル)
 - ・ 意味調べ： 国語や英語などの分からない語句を調べる。特別な使い方(慣用句)を見付け、調べること。
 - ・ 視 写： 分からないこと(単語、文章)をノートに書き写します(国語・英語他)。普段から、分からないことをメモにする習慣をつけることも大切です。また、次に学ぶ本文を写し書きすることも効果的です。
 - ・ 事前読み： 教科書を読んだり、問題を解いたりします。間違ってもよいです。一度問題に触れることで、学校での学習がより効果的になります。
 - ・ 動画視聴： 一番取り組みやすいもの。動画視聴は、課題をもって観るか、視点を与えなければ効果は少ないといわれています。脳の活性化が見られません。

(3) 複合型

- 基礎力の習得は復習型で、授業の準備は予習型(ハイブリットな家庭学習)。両方を合わせたり、使い分けるのがよいと考えます。

7 家庭学習の具体例

	月	火	水	木	金	土	日
宿題①	教科の振り返り					休み	休み
宿題②	適応問題繰り返し						休み
自主学習	予習 動画等の視聴						

○ 児童生徒が「自ら課題をもち、解き方を見付けながら学習する」方法では、学習内容の定着が見込まれること、学習意欲や予測する力などが身につくことが分かっています。(参考 発見学習 米 心理学者 ブルーナー)

※ 動画視聴は取り組みやすいという長所がありますが、ただ見るだけではあまり効果はみられません。脳の活性化も低いというデータもあります。

動画視聴を有効にするには、課題意識をもたせることが必須となります。

例えば、何かを調べるために、課題をもって視聴するとか、〇〇を理解するために視聴するといった意識が必要となります。